

紹介受診重点医療機関の選定に係る確認調査票

資料 1 - 3

1 対象医療機関について

医療機関名	宮城県立こども病院
協議対象とした理由	既に紹介受診重点医療機関として公表されており、 令和 5 年度外来機能報告において基準を満たさなくなり、意向がある

2 対象医療機関から報告があった内容をまとめたもの

(1) 基準を満たさなかった理由

令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染拡大期も十分な感染拡大防止対策を講じながら外来診療を行ったことで、令和 3 年度に比べて、再診患者の受入れが増加したものの、医療資源を重点的に活用する外来（重点外来）の受診患者が増加せず、再診患者に占める重点外来の割合（25%以上）を満たせなかった。（令和 5 年度外来機能報告において、22%であった。）

(2) 紹介受診重点医療機関を継続することによる自院への影響

紹介受診重点医療機関を継続することにより、紹介患者に対する医療の提供（かかりつけ医等への逆紹介を含む）等、患者の流れの改善のための取組みを重点的に行うことで、医師をはじめ各医療従事者の労働時間が急増する等、過度な労務負担が生じる可能性は、現時点において低いと見込んでいる。

(3) 紹介受診重点医療機関を継続することによる地域への影響

紹介受診重点医療機関を継続することにより、地域の周産期・小児医療において、高度で専門医療を集約的に提供する役割を担い、かかりつけ医を含む他の医療機関と緊密な連携のもと、外来医療機能の役割分担の推進が図れるものと考えている。

(4) 今後の基準達成の見込み

今回、基準を満たしていない再診における紹介受診重点外来の割合について、紹介患者の受入れをより一層推進するとともに、逆紹介については、担当医師を定め、診療部をはじめ関係職員が協同で進める。
また、高額等の医療機器・設備利用を必要とする外来等の充実を図り、紹介受診重点医療機関の基準達成に取り組む。

(5) 次年度以降における意向継続の予定

次年度以降においても、紹介受診重点医療機関を継続する意向である。

(6) その他補足事項等

—

(参考：医療機関からの報告値)

区分	紹介受診重点外来の割合等		紹介率	逆紹介率
	初診	再診		
報告値	69.5%	22.0%	86.7%	56.7%
医療資源を重点的に活用する入院前後の外来	255日/4,140日	7,140日/65,696日	—	—
高額等の医療機器・設備を必要とする外来	991日/4,140日	6,879日/65,696日	—	—
特定の領域に特化した機能を有する外来	2,508日/4,140日	2,363日/65,696日	—	—
基準値	40%以上	25%以上	50%以上	40%以上

基準

参考水準

※ 「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」、「高額等の医療機器・設備を必要とする外来」、「特定の領域に特化した機能を有する外来」の各項目については個別の延べ数を計上しているため、報告値の割合と、3 項目から算出される割合を合計した数値は一致しません。

紹介受診重点医療機関の選定に係る意向調査票

1 対象医療機関について

医療機関名	一般財団法人宮城県成人病予防協会附属仙台循環器病センター
協議対象とした理由	既に紹介受診重点医療機関として公表されており、 令和5年度外来機能報告において基準を満たさなくなり、意向がある

2 対象医療機関から報告があった内容をまとめたもの

(1) 基準を満たさなくなった理由

初診における重点外来の割合が、令和3年度41.1%→令和4年度35.8%と低下していますが、この期間、当院の心エコーのソノグラファーの産休などがあり検査枠を制限する必要がありました。これにより高額な医療機器・設備を必要とする外来としての対応が一時的に即応できなくなっていることが要因です。紹介率については、令和3年度 紹介率 29.5%、逆紹介率 61.4%→令和4年度 紹介率 30.5%、逆紹介率 67.2%と十分ではありませんが基準達成方向となっております。

(2) 紹介受診重点医療機関を継続することによる自院への影響

仙台市北部の循環器疾患専門病院として今後も地域で診療を継続する方針ですが、医師の働き方改革もあり、医師の診療の比重を、地域でのニーズが高い循環器疾患の救急、入院医療に集中させる必要があると考えています。循環器疾患の慢性期は薬物療法で安定した状態が得られ、二次予防を終生継続する必要があることを考慮しますと、慢性期はかかりつけの先生方に治療をお願いし、状態悪化時や専門的な精査が必要な場合には当院の外来という役割分担を行うことが必要です。

当院としては、紹介受診重点医療機関として継続していくことで、地域の医療の役割分担が明確となり患者さんへの説明の負担も軽減できることが期待できます。結果として、当院の医師のリソースを有効に活用することにつながり、患者さんに最適な医療を提供できることになると考えられます。

(3) 紹介受診重点医療機関を継続することによる地域への影響

循環器疾患は、慢性期にはかかりつけ医による生活習慣病に対する長期に渡る二次予防が必要になります。当院が紹介重点医療機関を継続して地域での役割分担を明確化することで、慢性期にはかかりつけ医を、増悪時、精査が必要な場合は当院を利用していただくという使い分けを患者さんに受け入れていただくことが容易になることが期待されます。かかりつけ医は、患者さんの生活を継続的にみておられますので、生活習慣病への対応は当院よりも適切に対応いただけることが期待でき、一方で当院は循環器疾患の救急診療、ならびに高度医療機器を使用した専門的外来に専念できるようになり、かかりつけ医にも患者さんにも、必要なときにいつでも当院の専門的な外来をご利用いただける環境を提供できることとなります。当院が紹介受診重点医療機関を継続することで地域の他の医療機関の負担が増えることはないものと思われれます。

(4) 今後の基準達成の見込み

心エコーのソノグラファーの新規採用により、心エコーの検査枠を通常どおりにもどすように対応をすすめており、暫時効果がでてくるものと考えています。また、CT、MRIについても地域の先生方に利用してもらえるようにこれまで以上に広報活動を行っていく方針です。

紹介率については、引き続き当院の診療内容をかかりつけの先生方に案内して改善を図ります。但し、200床未満である当院は、選定療養費徴収による紹介受診への誘導ができない点をご勘案いただき、努力目標として継続的な取り組みを行ってゆくことでご理解を賜りたい意向です。逆紹介率については、当院の仕組みができていますので継続的に基準を満たせるものと考えています。

(5) 次年度以降における意向継続の予定

上記に述べました通り、循環器内科、心臓血管外科の医師のリソースには限りがあります。働き方改革も見据え、診療の比重を、専門的な初診、救急診療、入院診療に集中させる必要があります。よって、調整会議のご理解がいただけたら当院としては今後も紹介受診重点医療機関の役割を地域で担わせていただければと考えています。

(6) その他補足事項等

—

(参考：医療機関からの報告値)

区 分	紹介受診重点外来の割合等 (日数の母数は初診・再診 外来患者延べ日数)		紹介率	逆紹介率
	初診	再診		
報告値	35.8%	26.5%	30.5%	67.2%
医療資源を重点的に活用する入院前後の外来	270日/7,707日	2,730日/32,940日	—	—
高額等の医療機器・設備を必要とする外来	1,640日/7,707日	5,788日/32,940日	—	—
特定の領域に特化した機能を有する外来	1,714日/7,707日	910日/32,940日	—	—
基準値	40%以上	25%以上	50%以上	40%以上

基準

参考水準

※ 「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」、「高額等の医療機器・設備を必要とする外来」、「特定の領域に特化した機能を有する外来」の各項目については個別の延べ数を計上しているため、報告値の割合と、3項目から算出される割合を合計した数値は一致しません。